



幸吉のあるさと

第7号

発行：浅野元志

HP アドレス <http://www.ednet.tamano.okayama.jp/jhs-hachihama>

教育活動アンケートの中間報告

7月末にはお忙しい中「教育活動(中間期)についてのアンケート」にご協力いただき大変ありがとうございました。このアンケートは、本校の教育活動を学校(教職員)だけでなく、全生徒や全保護者の方々にも診断していただき、年度後半の教育活動の改善に役立てるために実施させていただきました。お知らせが遅くなりましたが、中間期のまとめを報告させていただきます。

別表のアンケート結果には、それぞれの項目についての回答のうち、「4：よく当てはまる」及び「3：当てはまる」を肯定的なご意見ととらえ、その割合を掲載させていただきました。また、各項目で80%を超えるものを『よくできている』・80%未満～70%を『ますますできている』と考え、逆に70%未満～50%を『努力を要する』・50%未満のものを『特に努力しなければならない』ものと考えております。

○全25項目中、「肯定的な意見」の平均値は三者とも87%（昨年度89%）、総合的にはますますの中間期の評価と考えます。

○ほとんどの項目で、三者平均が80%を超えていました。そのうち90%を超えた項目は14項目ありました。特に、95%を超えたのは以下の項目でした。

項目 9 「決まりを守ることのたいせつさを教えてくれる。きまりの意義を理解し、遵守する姿勢や、公共心の育成をめざした指導を適切におこなっている。」

○特にの中間期の課題として見えてきたものは、次の項目です。

項目 22 「テレビやゲーム、スマートフォンなどを家庭で(自分で)ルールを決めて使っている。家庭でのメディア利用(TV、ゲーム、スマートフォン等)について啓発活動を行うことができている。」 三者平均66%

保護者は54%、生徒は67%、教職員が76%であり、この項目を改善していくことが急務になっています。原因の一つに休校中にメディアと接する機会が多く、家庭内のルールが十分に機能していなかったことが考えられます。また、教職員も十分にメディアとの接し方についての指導ができていなかったと感じています。学校が再開され、その時々声かけや指導、メディアコントロールについてアンケート等での啓発活動により、ルールを守って利用できるようになっていくと思われれます。

項目 4 「宿題や予習・復習などの家庭学習にはきちんと取り組んでいる。宿題や長期休業中の課題等を適切に設定しており、子どもの家庭学習の習慣化を図っている。」 三者平均73%

保護者は75%（昨年72%）、生徒は72%（昨年70%）、教員が73%（昨年94%）となっています。家庭学習の時間が多かった一学期は、十分に指導ができていないと感じている教員が多くみられました。GIGAスクール構想に沿って、ICTの活用を行っていく必要があります。

また、家庭学習の習慣化を目指し、更なる生活ノートの活用・定着、指導が必要と考えています。定期テスト前には、ノーメディア・デイやメディア・コントロールデイを実施し、より有効に活用できるよう事前アンケートにも取り組みます。今後とも家庭学習の時間の増加に取り組んで参ります。

●どの学年の生徒にもお願いしたい項目

項目23「学級や学年通信・学校だよりなどを忘れずに保護者に見せている。」

生徒は、1年生79%、2年生69%、3年生77%でした。昨年度よりも改善はみられますが、まだ十分だとは言えません。大切な連絡も多いので、家庭でもご指導お願いいたします。

まとめ

本校では、数年前より「教えて考えさせる授業」の取組によって授業改善に努め、主体的・対話的で深い学びを実践してきました。また、今年度はサブテーマとして、語彙力・読解力の向上を挙げ、「校内統一漢字テスト」や「おかやま新聞づくりコンクール」を通して取り組んでいます。全職員が一致団結して取り組むことにより、成果が現れると思います。今後は、これまでの取組をさらに進めるとともに、学区の学校園と一緒に状況を詳細に分析し、課題を共有しながら継続した取組をすることが一層大切であると考えております。今後とも本校の教育推進に更にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。